

環境文明21は1日、2
023年度経営者「環境
力」大賞の顕彰式・発表
会（後援・環境省、環境
新聞社）を東京都内のホ
テルでオンライン併用に
よりの開催した。同大賞は、
より多くの企業の環境対
策を推進し、産業界全体
の「環境力」をより高め
ていくことを目指して08
年に創設されたもの。企
業の中でも中小・中堅企
業経営者に焦点をあてて
おり、16回目となる今回
は6名が大賞、2名が奨
励賞を受賞した。

顕彰式では、環境文明
21の藤村コノエ代表理事
が受賞者の授賞理由を紹
介するとともに賞状が授
与され、その後、受賞者
による「私の環境力」に
ついての発表が行われ
た。受賞者と授賞理由な
どは次のとおり。

▽井口二世氏（井口一
世代表取締役、東京都千
代田区）製造業Ⅱ金属Ⅰ
Ⅱ加工や切削レソ加工な
ど従来からの製造工程
そのものをデータに基づ
て変えることにより、環
境負荷を大幅に削減しよ
うとする発想とそれを実
現している点。自社だけ
でなくサプライチェーン
全体としてのCO₂削減
を目指し、日本の競争力
向上にも役立つ取り組み
を進めている点など。

▽岡忠志氏（ダイワ
テック代表取締役、名古
屋市）建設業Ⅱ建設現場
向けのソーラーシステム
ハウスを主力商品として
販売。災害発生時には、
建設現場にレンタルして
いるものを被災地に持ち
込むなど、きめ細かな
サービスを提供している
点。全国66自治体と災害
協定を結び、社会インフ
ラとしての役割を果たし
ている点など。能登半島
地震でも早期から現地で
活動を展開している。

をいれ持続可能なビジネ
スマデルを築いている点
など。

▽菅野文吉氏（絹川建
設工業代表取締役会長、
福島県伊達郡）建設業・

環境文明 21 23年度経営者「環境力」大賞 顕彰式・発表会を開催



経営者「環境力」大賞の受賞者ら

廃棄物処理業Ⅰ土木事業
と廃棄物処理業のほか、
循環型農業やバイオ炭を
活用した炭農業の普及に
よるJクレジットの創出
に取り組み。バイオ炭な
どを畑や田んぼに土壌改
良剤として施すことで、
土地改良効果や農作物の
収穫量向上、汚染物質の
除去、さらに炭素貯留効
果を高めるなど、農地保
全と地球温暖化防止の取
り組みを両立させている
点など。

▽松下寿夫氏（飯能信
用金庫理事長、埼玉県飯
能市）金融・保険業Ⅱ市
役所、商工会議所、地元
企業と連携した地元中学
生との森林整備活動、林
業事業者と連携した地元
木材の普及啓発事業な
ど、循環型林業のビジネ
スマデルを継続的に支援
している点。脱炭素と循
環経済、DXなどに先駆
的に取り組む企業人を講
師としたセミナーを開催
し、地域発展に貢献する
活動を率先して展開して
いる点など。

▽菅原喜雄氏（アース
シグナル代表取締役、埼
玉県川越市）脱炭素コン
サルディング業・建設業・
不動産Ⅱ再生可能エネ
ルギー関連事業を中心
に、営農型ソーラーシェ
アリング、EVカーシェア
アリングや充電事業、不
動産、空き家活用など、
さまざまな事業を展開し
ている点など。

▽趙勇樹氏（エコラン
ド取締役専務、東京都杉
並区）運輸業・その他Ⅱ
引っ越しなどの際に出る
家財などを、さまざまな
企業と連携しリユース・
リサイクルする事業を展
開。カンボジアでの子供
たちへの支援活動やおも
ちゃリユースなどの社会
貢献活動など。

▽水谷重夫氏（テラレ
ムグループ代表取締役社
長、東京都中央区）その
他Ⅱ市川環境エンジニア
リングが50周年を迎えた
ことを機に、地球環境の
ために「もっと存在感の
ある地球環境貢献企業ク
ループ」としての事業の
強化を図ったグループ会
社。多様な再生可能資源
のエネルギー利用、原材
料化、再製品化など環境
に関するソリューション
提供を新たな成長要因と
して捉え、循環経済への
移行に向けて、動脈産業
と静脈産業を一緒に持続
可能な脱炭素社会に貢献
しようとする点など。

【奨励賞】

発表会終了後には、福
山哲郎参議院議員が「超
党派カーボンニュートラ
ルを実現する会」の活動
について、話題提供を
行った。この中で福山氏
は、「気候変動対策はコ
ストではなく投資だ」と
述べるとともに、ライフ
スタイルなど社会全体の
変革が必要であることを
訴えた。